

会 議 録（要 旨）

会 議 名	第2回 武蔵村山市社会教育委員会議
開 催 日 時	平成23年6月29日（水） 午前10時00分 ～ 11時30分
開 催 場 所	中部地区会館（市役所4階）402学習室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：（委員）浅井議長、河原塚副議長、白戸委員、岡本委員、栗原委員、奥野委員 （事務局）生涯学習スポーツ担当部長、生涯学習スポーツ課主査・主事 欠席者：池谷委員、加藤委員、田中委員、滝坂委員
議 題	学校支援地域本部事業について
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	審議経過のとおり
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。）	<p><b>報告事項 第1回武蔵村山市社会教育委員会議会議録について</b> 第1回会議にて質問のあった、少年少女合唱団について事務局より説明。 （事務局）少年少女合唱団の活動内容について説明。構成団員は年長児から中学三年生を基本としている。市内のいろいろな学校、年代の方に参加してもらう。目的としては、合唱に親しみ、ハーモニーを奏でる。2点目として、集団の中で少年少女の心身の育成を図る。3点目として、シニア団体が後輩団体の指導にサポートすることにより地域のリーダーとしての経験をつむ。原則として毎週土曜日午後2時から4時まで定期的に練習している。年間の計画については、自主的なコンサートもあり、音楽連盟主催のコンサート、福祉まつり、市民文化祭等に参加する予定。7月1日付の市報にも掲載している平和の集いにも参加する。その他、市の事業にも協力依頼をしていく。学年、学校間の交流を広めることが補助金の交付目的である。市の実施計画として、五年間は補助金を交付する予定である。</p> <p>（委員長）文化協会から個別団体として独立させているのはなぜか。 （事務局）文化協会の中にある音楽連盟には13から14団体ある。音楽連盟の中で少年少女を対象に事業を行っているのがこの団体である。</p> <p>（委 員）昔は、このような団体がたくさんあるが補助金は交付されていなかった。 （事務局）以前は補助金交付ではなく、大型楽器を市として購入していた。それで各団体に楽器を貸出していた。</p> <p>（委 員）子供たちの育成に関して補助金を出すことに関しては賛成である。しかし、補助金をやめる際には徐々に金額を減らしていき、その間に単独で事業を行うことが出来るように準備させることが必要である。もし、突然補助金をなくしてしまったら団体自体が解散しかねない。</p> <p>（委 員）活動場所について知りたい。 （事務局）市民会館、市民総合センター、市内保育園等で行っている。</p>

- (委員) 年齢、地域は偏っているのか。  
 (事務局) 年齢に関しては小学生が多い。地域に関しては全体的にいる。  
 (委員) 団員の募集に関してはどうなっているのか。  
 (事務局) 市報に掲載、学校をとおして募集している。  
 (委員) 現在の予算の内訳をみると講師謝礼がかなりの高額だが補助金をやめた際に自立は厳しいものがあるのではないかと。  
 (事務局) 現在の予算で見ると補助金と自主財源の比率は半分くらいである。

**議題 学校支援地域本部事業について**

事務局より配布資料について説明。

- (委員) 市の考えかたとしては市内に一つ学校支援地域本部を置くということだったが、はたして機能するのかを数回議論している。コミュニティスクールという学校支援地域本部よりも上に位置付けられているものがあり、二つの関係がよく見えてこない。基本的には、地域を活性化させていこうという考えならば、学校区の中の住民を中心としてコミュニティスクールとも連携しながらボランティアを設置していけばよいのかと思う。実際、他市での例もある。このことを考えると市内に一つ設置とすると何ができるかと考えてしまう。
- (事務局) 先日の会議でも、市内に一つか、学校区ごとに作るかの話があったが、コミュニティスクールが学校ごとにできる予定である。そのことも踏まえて、コミュニティスクール担当の主査と話をしたが、今現在はどのような方向性になるかは見えてこないのが現実である。しかし、事務局だけのイメージだと各学校区に一つ学校支援地域本部を設置したほうが地域密着には向いていると思う。
- (委員) その点も踏まえて答申を作成すればよいのか。  
 (事務局) そうである。
- (委員) コミュニティスクールの方でも質問を出したが学校区ごとで人財を選出するとなると人財不足になりかねないとの意見があった。市内だけでなく、市外からも呼ぶことも考えた方がよいのではないかと。
- (委員) 人財とはどういう想定なのか。  
 (委員) そこはまだ話ができていない。
- (委員) 地域で支えるとのコンセプトであればやはり地元で根付いている方がよい。しかし、特別な技能を有する人を呼ぶ場合にはその限りではないと思う。
- (委員) 市の人財をつかめていればその話は必要であるが、内容も不透明なのでその話はまだ先になるのではないかと。
- (委員長) なにを支援していくのかを調べなければならない。実際、学校の要望としては何があるのか。部活動の指導、下校指導、学習指導まで踏み込んでの支援なのか。
- (委員) まだ、先の話ではあるが市報等で学校ごとの要望を載せて人財を募集し、市民への周知を図るのも大事である。
- (委員) その場合に、支援してくださる方は無償のボランティアか予算のあるところなのかも重要である。事務局として、支援をしてくださる方に対する謝礼等の考え方はあるか。
- (事務局) 基本的には市のボランティアには、食事代等として有償ではある。それが基本になってくるのではないかと。

- (委員長) 放課後子ども教室は市内で何校あるか。
- (事務局) 6校である。行っていない小学校に関しては空き教室の関係もあって実施できていない。
- (委員長) 学校支援地域本部が放課後子ども教室を取り入れるということになるのか。
- (事務局) それはないと思う。
- (委員) 放課後子ども教室は単独事業として行うということか。
- (事務局) そうである。
- (委員) そうなると同じような内容の事業が増えてしまうので区別が難しくなってしまう。地域を支えるというコンセプトはすべて同じなので、それをみんなで作っていくと考えると協力しあってより機能するべきことをやるべきなのではないか。今の状態では国の事業に沿っているだけである。
- (事務局) 放課後子ども教室は一つの事業であると思う。毎日行われる事業なので、学校支援地域本部とは少し違うかと思う。
- (委員) 個々の事業になってしまうと、他の事業の委員と重なってしまう可能性もある。たとえば、コミュニティスクールの中に放課後子ども教室があるようにすれば、コミュニティスクールや学校支援地域本部という大きな基盤の中に様々な事業の柱として置いた方が各事業の連携もとりやすいとわかりやすいと思う。
- (委員) その方が予算も取りやすいのではないか。
- (委員長) 予算以前に人材が重なってしまうのでこのように組織立たせた方が良いのではないか。イメージとしてはコミュニティスクールの下に学校支援地域本部があり、その本部の中に放課後子ども教室等の事業があるような組織である。
- (委員) 目的を明確にしていかないと手段が目的となってしまうので、先が見えなくなってしまうのかもしれない。そういういみでは、教育も当たり前のように教育と言っているが、なんのために教育をしているかがわからない現実もある。現在、子供たちを育てていていつも問われるのが、個の幸せなのか次の地域を支える人財を育てる意味もあり、うまくその辺の兼ね合いも含めていかなければならない。すべてを教えるのではなく、子どもたち、地域、保護者のニーズを考えなければならぬ。なにを支援できるのかを考えなければならず、小・中学校は武蔵村山市立なので武蔵村山市の教育委員会の大きな教育方針も念頭に入れなければならぬ。その中で武蔵村山市としてはどのような子どもたちを育てていきたいのかというのから、どのような教育かを考え、その教育にはどのような支援が必要かを考える。武蔵村山市の子どもたちに与えようとしているのかを明確にしたほうが学校側としても受け入れやすい。
- (委員長) ただやれば良いというものではない。
- (委員) 以前、この議題について話し始めたときにやはりこちらが提案するだけでは、主旨がずれてしまう部分がある。まず、学校側の意見を聞くヒヤリングを行いたい。それを行わないと答申には進まない。
- (事務局) 具体的には、校長先生に話を聞くことか。
- (委員) 校長先生のみではなく、副校長先生、現場の先生。みんなの意見が同一ではないので、いろいろな意見を聞きたい。すぐに意見はでないかもしれないが、ともに考えていくような感じで話を聞きたい。

	<p>(事務局) そのような計画も前向きに検討する。それは、先生方を社会教育委員に呼んで話を聞くのか。</p> <p>(委員) そうではなく、班に分かれてこちらから学校に訪問していくとのことである。</p> <p>(事務局) 今後、学校側と連携をとって計画を進めていきたい。小学校限定なのか。</p> <p>(委員) 可能ならば、一つの班が小学校と中学校を各1校ずつ回る。</p> <p>(事務局) そうしたら、2つの班をつくり西と東に分けて小学校2校、中学校2校から意見を聞けるよう予定を立てる。</p> <p>(委員長) コミュニティスクールから見た学校支援地域本部事業はどのようなものか。</p> <p>(事務局) 今現在では、関わり合いについては不透明である。</p> <p>(委員) 社会教育と学校教育の違いを明確にしていかなければいけない。</p> <p>(委員長) 杉並区の事例をみると関わる大人も自分を豊かにしていこうという姿勢がみえている。</p> <p>(委員) 社会教育委員として関わるならば、協力してくれる人を地域の中から見つけ出し、社会教育に無関心な人を関心がある人にしていくことも重要である。</p> <p>(委員) 結果として、コミュニティスクールも学校支援地域本部事業も地域で協力することは同じである。コミュニティスクールは主に学校の運営をよくしていこうとしている。学校支援地域本部事業は自らも含めてよくしていこうとしている。この点を踏まえて社会教育委員の視点で関わっていく。</p> <p>次回の会議日程について 委員の日程調整の結果、8月30日(火)に決定する。</p>
--	---

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"></div>	傍聴者： <u>0</u> 人
-------------	---	-----------------

会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示 (根拠法令等： ) <input type="checkbox"/> 非開示 (根拠法令等： )
--------------	---

庶務担当課	教育委員会 教育部 生涯学習スポーツ課 (内線：652)
-------	------------------------------

(日本工業規格A列4番)